

自由研究発表

先行と階層  
エンデにおける母系性の現れ方  
Precedence and Hierarchy: How Matrilineality Emerges in Ende

中川 敏 (なし)  
Satoshi Nakagawa (none)

本論文の目的は二つある。(1) (民族誌的には) インドネシア東部のフローレス島中央部に住むエンデ人の母系性 (matrilineality) を記述・分析することであり、同時に(2) (理論的には) これまで人類学で提案された社会の二つの組織化原理 (先行 precedence と階層 hierarchy) の関係を明らかにすることである。二つの議論は合わせ鏡のようにお互いを照射することとなる。エンデ社会は父系制 (patrilineal system) をもった社会であり、母系制を支えるイデオロギーはない。しかしながら、その社会において、明示的な二つのイデオロギー、父系制および非対称的な同盟の相互作用から母系性があらわれてくるのである。二つの原理からの母系性出現のメカニズムを説明するには、先行と階層を洗練する必要がある。

「階層」 (ヒエラルキー) はインドの社会を西洋社会と対照させる際に、ルイ・デュモンによって提唱された理論概念である。それに対して、ジェームズ・フォックスはオーストロネシア社会の分析する際に、「先行」 (プレジデンス) の考え方の重要性を訴えた。フォックスによれば、階層は共通の「単一価値」に基づくのだが、先行は「多様な価値」に基づくという。そして階層は包含を、先行は排除を目的とすると彼は言う。

エンデ社会の親族関係は、父系制と非対称的な紐帯に基づいている。ともに明示的なイデオロギーである。父系制は相続の分野で顕著である。父系的に関係する者たちは「一つ」の、分離不可能な集団を構成すると考えられているのである。また、非対称的な紐帯は、母の兄弟の娘との結婚 (母方交叉イトコ婚) のイデオロギーに基づき、妻を与える者と妻を取る者の関係を世代を超えて維持する。

父系制と優先順位の相互作用により、母系性が擬似的な父系制や擬似的な紐帯として現れる。母系性は、いわば、父系制の包含と排除の論理を利用しているのである。